

最優秀賞(三・四年の部)

ひいばあちゃん的生活

須賀川市立第二小学校 三年 菅野 瑠伊

ぼくには、ひいばあちゃんがあります。八十六才です。すきな物は、おせんべいです。

ばあちゃんは、とっても頭がよいです。なぜなら、家にある物でくふうをしているからです。たとえば、きれいなおかしの箱をとっておいて小物入れにしたり、こわれたものをひもやテープで直してつかったりしています。ま女のように、自分で薬も作ってしまいます。

お母さんも、「何にでもよくきくんだよ。」と言ってもらってきます。お酒に、かんそうさせたオトギリ草をつけたものです。ぼくも虫さされの時につけてもらいました。すぐによくなったので、びっくりしました。そんなばあちゃんでも、治せないものがあります。それは、耳が聞こえづらいことと、目が見えなくなってきていることです。

ぼくたちの顔をよく見たいし、元気な声も、もっとききたいなあと言っています。ぼくはばあちゃんの耳に口が近いので、「耳元でゆっくり話してくれるから、一番聞きやすい。」と、ばあちゃんに言われて、うれしくなりました。大きい声だけでは、音がわれて、聞こえづらいそうです。ばあちゃんと話すときはゆっくり、はっきり話すことを大事にしていきたいと思いました。目が見えづらいので、いろんなメガネをためています。それでも、まぶしく見えたり暗く見えたり、ぼくたちの顔がぼやけて見えるそうです。「前は口の動きを見て話がかつていたのに、さい近はそれもできないな。」と悲しそうな顔をしています。

ぼくは、ばあちゃんが元気になるように、たくさん遊びに行つて、話をするようにしています。ばあちゃんの畑のやさいをとりに行つたり、手伝いをしています。ばあちゃんのとつてくるやさいは、新せんなので、とてもおいしいです。

「食べてくれる人がいると、作りがいがあるなあ。」とばあちゃんが言ってくれました。

ぼくたちが遊びに行くと、真っ赤なトマトをむいてくれます。ばあちゃんは、毎日しおをかけて食べているので、熱中症にならないし、日焼け止めも塗ったことがないと言っていました。

ばあちゃんは、お正月やお盆のお小遣いのふくろにかならず一言書いてくれます。ぼくは、これを大事にしています。顔にしわがあつても、こしが曲がつても、ひいばあちゃんは、とっても元気です。

もうすぐ、ぼくはばあちゃんの身長をぬかします。ばあちゃんのびっくりした顔を見るのが楽しみです。

ぼくは、ひいばあちゃんが大スキです。